

令和7年度 施設自己評価



園名

評価日 令和8年3月31日

評価基準

A(大変優れている): 施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態
B(適切である): 計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態
C(改善が必要): 取り組んでいるものの、さらにより良くしていくための課題や見直す点がある状態
D(早急な対応が必要): 基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態

No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	B	法人の理念に基づき各クラスで指導計画を作成・実践し、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。今後は、計画の意図や子どもの発達理解について職員間の共通認識をさらに深め、園全体で保育の質向上を図っていく。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	B	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員間の共通認識のもとに作成している。	A	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	A	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	児童憲章や法人内研修での学びを生かし、子どもの権利や人権を尊重した保育に取り組んでいる。職員全体で意識は高まってきているが、日々の関わりの中で振り返りを重ね、より丁寧な対応を継続していくことが必要である。今後も子どもが安心して過ごせる環境づくりを進め、保護者にも信頼される保育を目指す。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	B	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	B	
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	B	
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	B	登園時の受け入れや日々の関わりを通して、子ども一人ひとりの信頼関係を築き、安心して過ごせる環境づくりに努めている。降園時には園での様子を丁寧に伝え、保護者との連携も大切にしている。今後は愛着関係を基盤とした関わりを深め、子どもの安定した成長につなげていく。
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	保育室の整理整頓や安全点検を計画的に実施し、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。発達や興味に応じた遊びの環境も整えているが、今後は子どもの姿に合わせた見直しを定期的に行い、主体的に遊び込める環境となるよう職員間で工夫・改善を重ねていく。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	B	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	B	安全計画に基づき避難訓練や日々の点検を実施し、子どもが安全に過ごせる環境づくりに努めている。睡眠時チェックや見守り体制の徹底、感染症やアレルギー対応についてもマニュアルに沿い適切に対応している。職員間での共有や意識は高まっているが、状況に応じた柔軟な判断力の向上が課題である。今後は振り返りを重ねながら対応力をさらに高め、安全管理の質の向上と安心できる保育環境の充実につなげていく。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	B	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	A	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	B	
23	教育・保育計画	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	B	全体的な計画や教育保育のねらい等、職員間で共有し、理解を深めながら教育・保育に取り組んでいる。子ども一人ひとりの状態や様子なども会議で共有し協力して見守っているようにしている。振り返りも行っている。
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	B	
25		長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	B	園の保育方針や運営方針を職員間で共有し、理解を深めながら教育・保育の実践に努めている。外部研修や主体的な学びへの参加を通して専門性の向上を図っているが、今後は園内での振り返りや学び合いの機会をさらに充実させ、職員全体の資質向上と組織力の強化につなげていく。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	B	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	B	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	B	
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	B	
31	幼保小連携	保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	B	児童表を作成し、発達を見守り、配慮が必要な子どもに対し、記録をもとに職員間で話し合い、専門機関と連携しながら計画通りに支援を実施している。今後は、保護者様との面談の機会をより充実させ、ご家庭と園とで支援方針をしっかりと共有しながら、チーム保育で丁寧に関わっていく。小学校進学に向けて小学校との連携や交流を深めている。
32		児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	A	
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	B	
34		0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	B	
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	B	
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	B	
37		地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	A	
38	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	日々の対話や保育参観・行事等を通して、保護者と子どもの成長を共有し、信頼関係の構築に努めている。地域の子育て支援情報の発信や関係機関との連携も行っているが、今後は保護者や地域のニーズをより的確に捉えた支援を充実させ、地域に開かれた安心してできる施設づくりを推進していく。
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	B	
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	B	
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	B	安全計画の運用やヒヤリハットの分析を通して事故防止に努め、職員間での情報共有と再発防止に取り組んでいる。苦情解決体制も整備し、適切な対応と保護者への周知を行っている。今後は分析結果の活用や振り返りをさらに強化し、安全管理と対応力の向上につなげていく。
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	A	
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	B	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	B	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	B	
	考察	今年度の自己評価を通じ、高砂福祉会の理念に基づいた「子ども一人ひとりに寄り添う保育」が施設全体で一定程度実践できていることを確認している。保護者との信頼関係の構築においても、概ね良好な成果が見られている。また、安心・安全な保育の提供を最優先とし、安全計画や感染症対策、各種マニュアルの確認・運用を進めている。ヒヤリハットの共有を通して、職員の安全意識も向上している。一方で、職員間の学び合いや専門性の向上にはさらなる充実が必要であると捉えている。次年度は、園内研修や保育の充実を図り、チーム全体で保育の質の向上を進めていくとともに、地域の子育て支援にも積極的に取り組み、より地域に信頼される施設づくりを推進していく。		